

# 三芳町子ども読書活動推進計画（簡易版）



—三芳の子どもたちに読書の喜びを—



平成 24 年 4 月・三芳町教育委員会

完全版は、町立図書館に常備し、三芳町のホームページに掲載しています。

## ●読書活動推進計画の基本的な考え方●

**推進計画の策定** 子どもの健やかな成長に資するという目的を果たすことにつながると考え、子ども（おおむね 18 歳以下の子ども）の発達段階に応じた読書活動事業を“子ども読書活動推進計画”に位置付け、第 1 回目の計画を策定することにいたしました。

**基本理念** “子どもたちに読書の喜びを”を基本理念に掲げ、本町で育つすべての子どもが読書の楽しさに触れ、知る喜びを獲得する中で、自身の可能性を広げ、その人生をより深く魅力的なものにしていく人間に成長できるよう、学校・家庭・地域のきずなを大切にしながら、子どもたちの読書活動の推進に努めます。

**推進計画の期間** 平成 24～28 年度までの 5 年間とし、平成 28 年度には計画の見直しを図ることとします。

以下の行頭に①②等が付いた項目は“今後の方策”です。

## ●子ども読書活動推進のための方策●

### 1 家庭・地域における取組み

子どもが読書に親しむ環境づくりに、家庭や地域が取り組んでいくことが重要です。

- ①生涯学習課では、家庭や地域における子どもの読書環境の大切さの啓発、読書活動の推進に取り組みます。
- ②公民館など生涯学習施設を中心に、地域の読み聞かせボランティアなどの自主的な活動を支援すると共に、活動しやすい環境整備に努めます。等

### 2 学校における取組み

**子どもの読書活動推進における学校の役割** 学校は、子どもの読書習慣を形成していく上で大きな役割を担っており、学校全体で組織的・計画的に読書活動を推進していくことが求められています。（なお、三芳町では、これまでに文部省の読書活動についての委嘱研究を行い、読書活動の推進に取り組んでいます。）

**小学校における取組み** 週に 1～2 回の“朝読書”や年に 1～2 回の読書週間、読書月間などにおいて、本を読む習慣付けの活動に取り組んでいます。教員、学校図書館司書、読書支援ボランティアによる読み聞かせやブックトークも行われています。

①各学校では、子どもが“本を読むのは楽しいことだ”と実感できる機会を増やすように努めます。

②各学校では、子どもが日常的に本に出合えるように、教室内の“学級文庫”の質と量の充実に努めます。また、“学級文庫”に学年ごとの推奨図書を毎年 1 冊ずつ追加し、多くの児童生徒にその 1 冊が読まれるように、担任が読み聞かせたり紹介したりしていく取組みを実施します。等

**中学校における取組み** 町内すべての中学校でほぼ毎日、“朝読書”を実施しています。生徒たちの心が落ち着き、気持ちよく授業に入れるようになったことも、この取組みの成果の一つです。年に数回、読書週間、読書月間を定め、生徒の読書活動を啓発しています。

①各学校では、生徒の読書意欲を刺激する機会を増やすように努めます。

②各学校では、平成 24 年度からは小学校と同様、学級文庫の質と量の充実に努めます。等

**三芳町学校図書館教育推進委員会の活動** 学校教育課を事務局とし、各小中学校の司書教諭（図書主任）と学校図書館司書が 1 名ずつ、校長会、教頭会から各 1 名、町立図書館司書 1 名で構成されています。情報交換と、全小中学校で一斉に取り組む活動計画を策定しています。

下部組織として、学校図書館司書と町立図書館司書を対象とした“司書連絡会”（事務局／学校教育課）があり、月 1 回、情報交換と研修を目的に集まっています。この会では、グレード別おすすめ本を紹介する“みよし司書通信‘よもよも’”を年 2 回発行し、全校児童生徒に配布しています。

①“同委員会”においては、学校同士が情報を交換・共有し、啓発し合いながら子どもたちの読書活動をより一層啓発する取組みができるよう努めます。等

### ■子どもが読書習慣を身に付けるのに大切なこと

- 1 子どもの身近に、その子どもに適した、読んで楽しい本がそろえられている。
- 2 子どもと一緒に、楽しんで本を読む大人が身近にいる。
- 3 本を読むのに適した静かな環境や、ゆったりと読書を楽しむ時間がある。

**図書館との連携とボランティアとの協働への取り組み** 学校図書館システムでは、司書により他校の蔵書検索や町立図書館の蔵書検索などもできます。町立図書館は、“司書連絡会”などを通して図書情報や読み聞かせ、ブックトークなどの技術向上に関する情報などを提供し、学校図書館司書が各校の読書環境状況や調べ学習のテーマを町立図書館に伝えるといった活動を行っています。

また、PTA や地域ボランティアが児童に読み聞かせを行う活動が、十数年前に一つの小学校で始まり、現在は三つの小学校で行われています。

- ①各学校では、学校における読み聞かせボランティアとの協働の取り組みを継続し、成功させるよう努力します。
- ②“三芳町学校図書館教育推進委員会”及び町立図書館では、連携に努め、学校で読み聞かせ活動を行う際の心構え、本選びに関する注意点などを学ぶ研修の機会を、定期的・継続的に提供するように努めます。等

### 3 保育所（園）等における取り組み

**保育所（園）における取り組み** 三芳町の保育所（園）では、毎日の保育の中で絵本と触れあう機会をできるだけつくり、子どもが読書に親しむようにしています。

- ①保育所（園）では、絵本の読み聞かせ、紙芝居などを取り入れた保育を行います。また、図鑑で調べたり、文字を読む楽しさや、話を聞いたり、伝えたりできる体験の場を増やし、その環境を整えていきます。
- ②町立図書館の協力を得ながら、保育所（園）あるいは幼稚園との連携・交流を図り、子ども読書活動に関する情報の共有化に努めます。等

**子育て支援センター、児童館、学童保育室における取り組み** 絵本の読み聞かせや紙芝居を行っています。また、本を常時置いて、自由に読書をさせています。

- ①子育て支援センターでは、親子での絵本の楽しみ方の講座を引き続き開催し、絵本の読み聞かせなどの大切さや意義を広く普及するよう努めます。
- ②児童館では、子どもに適した図書室の整備に努めます。絵本の読み聞かせや紙芝居などを今後も引き続き行い、お話や言葉の世界に対する興味・関心を広げ、親子共に楽しんでもらえるよう努めます。
- ③学童保育室では、集団生活の中で、読書ができる落ち着いた空間と時間を保証し、児童の成長にあった本を提供するよう努めます。子どもたちの手作り紙芝居やその発表、絵本の読み聞かせなど、子どもが自発的に活動できるよう積極的に取り組んでいきます。等

### 4 町立図書館における取り組み

**子どもの読書と図書館の役割** 子どもの読書活動を推進するにあたり、図書館の果たす役割には大きなものがあります。子どもに読書の楽しみを伝える主な方法に、**読み聞かせ**と**ストーリーテリング**（お話、素話、語り）と

**ブックトーク**があり、多くの図書館で行われています。三芳町立図書館でも積極的に取り組んでいます。

**子どもに本や物語に親しむ機会を提供する取り組み** 町立図書館はこの取り組みを積極的に実施してきました。対象年齢を細やかに分け、子どもたちの聞く力・読む力が伸びるように工夫をこらしたプログラムを組んでいます。

- ①町立図書館では、本や物語に親しむ機会を提供する事業により多くの子どもが参加できるように努めます。中央図書館から離れている地域での開催に努めます。
- ②町立図書館では、こうした事業を充実したものにしよう、児童担当司書及び担当職員の専門知識と技術を高める研修機会を増やします。等

**ブックスタート** 町立図書館と保健センター共催の“ブックスタート”（4か月児対象）は、4か月児健診会場の一角で図書館スタッフが親子一組ずつに本を読んで聞かせ、家庭でもすぐ実践できるよう絵本を1冊進呈するものです。その場の読み聞かせで、赤ちゃんが絵本に興味を持って見入ることに驚き、“家でも読んでやりたい”とうれしそうに帰っていきます。また、平成23年6月から、2歳児歯科健診時に“ブックスタートプラス”（2歳6か月児対象）を行っています。本来の健診時に欠席した親子は、3か月後までのブックスタートやブックスタートプラス実施日に同様のサービスを受けられます。

- ①健診を受けなかった家庭への働きかけを行い、対象者全員への実施を目指します。

#### ■読み聞かせ

大人が子どものために本を読んであげることで、子どもの希望に沿って一緒に本を楽しみます。

(a) 読み聞かせの意義 赤ちゃんや幼児でも、読んでもらうことで本の世界を楽しめます。じっと聞くことで、自分で読むよりも情景や人物の心の動きを丁寧に思い描くことができ、読書の基礎となる“イメージして楽しむ力”が育ちます。本が読めるようになった子どもにも積極的に行うべきで、実際、高学年や中学生も耳を傾けて楽しめます。

(b) 読み聞かせをするために みんなが心を一つにして1冊の本を楽しむのが集団での読み聞かせです。みんなの感動が合わさり、子どもも読み手も、一人で読むとき以上の感動を味わいます。これをきっかけに本が好きになる子どもが大勢います。

複数の子どもを集中させて本の世界に引き込む読み聞かせを行うには、学習と訓練が必要です。絵本や本を知るように努力し、読み聞かせに向く本を選び、作品の魅力が自然に伝わるように読んでいきます。研修を受けながら実践をつむうちに、自然に上手な読み聞かせができるようになります。

## ■ストーリーテリング

本に収録された昔話や物語を覚えて語ることです。

(a) ストーリーテリングの意義 語り手が作品を自分のものにしてから語るため、その思いや解釈がより伝わりやすく、語り手と聞き手の視線が合いやすいので、読み聞かせとはちがう感動が生まれます。聞いている子どもは、本の挿絵にしばられることなく独自の世界をイメージして楽しめます。聞くことに集中し、言葉の響きや表現にも敏感になります。こうして文学を楽しむ素地が自然に育ちます。

(b) ストーリーテリングをするために 目的は、物語を伝えることです。大げさな声色や話芸で聞き手を引き付けるのではなく、話に身をゆだねて素直に語っていきます。素材選びが重要です。お話自体に魅力があり、子どもが楽しめる、語るに値する素材を選びます。選んだら、文章を覚え、そらで語れるように練習を繰り返します。暗唱するのではなく、お話の世界を思い描きながら伝えるように語ります。大変な作業ですが、聞き手にも語り手にもその労力に値するだけの喜びを与えてくれます。

②継続的な研修によりスタッフの読み聞かせの技術を向上させ、乳幼児の発達過程を踏まえた適切なアドバイスができるスタッフの養成に努めます。等

**読書支援ボランティアを養成する取組みなど** 町立図書館では、保護者や地域住民等の読書支援ボランティアを対象にした“読み聞かせ講習会”などを開催しています。

①町立図書館では、保護者対象に、子どもの本と読書に関連する講座の充実に努めます。

②町立図書館では、ボランティア養成講座等の充実に努めます。また、講師派遣依頼の受付体制を整え、町民が依頼しやすくなるように努めます。等

**小中学校との連携を深める取組み** 町立図書館では、団体貸出サービス、各クラスへのブックトーク訪問や町立図書館訪問授業での利用案内などを行っています。

①町立図書館では、小中学校に対する事業について、内容の充実に図りながら継続して取り組みます。

②町立図書館では、子どもと本をつなぐ効果的な取組みや読書環境整備に努めます。等

**“子どもの読書ネットワーク”を構築する取組み** 町立図書館は、他の施設との様々な連携事業を行っています。

①町立図書館では、子どもに関係する町の部署やその他民間施設との連携を積極的に行い、“子どもの読書ネットワーク”（右図参照）を構築するように努めます。

②町立図書館では、町内保育所（保育園）、児童館などの職員に本の情報等を提供する学習会を定期的に開催し、学習機会と交流を深める場を増やします。等

## ■ブックトーク

テーマを決めるなどしてあらかじめ用意した数冊の本を、お話の流れに沿って紹介することです。

(a) ブックトークの意義 本に対する興味を喚起し、読書のきっかけをつくる目的で行います。世の中には面白そうな本がたくさんあると気づかせることができれば、広い意味で目的を達したといえます。

(b) ブックトークをするために テーマを決め、本を選び、構成を考えます。タイムテーブルと台本をつくり、練習を重ねてから実施します。特に重要なのは、本選びです。対象となる子どもの関心事や読書力を考慮し、基本図書を中心に、紹介するに値する本を選びます。多様なジャンルにおける良質な児童書を数多く知っておく必要があります。

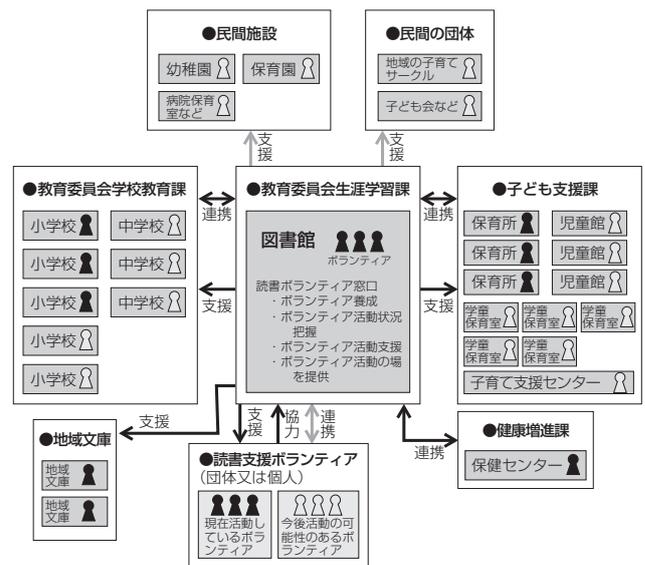
## 5 読書支援ボランティア活動推進の取組み

**読書支援ボランティア活動推進の取組み** 町立図書館や学校図書館などで読書支援ボランティアは様々な活動を行い、読書活動推進に大きな役割を果たしています。

①町立図書館では、読書支援ボランティアと連携・協力し、内容の充実に図りながら推進します。情報交換や支援に努め、研修会・講習会などを実施します。

②各小学校では、読書支援ボランティアが行っている“朝の読み聞かせ”の活動を継続・発展させるために、図書主任（司書教諭）・学校図書館司書とのより緊密な連携・協力や、情報交換・交流に努めます。等

**地域文庫と読書支援ボランティア活動の情報共有の取組み** 上富地区では、地域文庫が開かれています。また、“子どもの読書環境サポート隊‘ほんのむし’”が、ボランティア同士のネットワークとして活動しています。



→ (支援)：情報提供、講師派遣、ボランティア紹介など  
 ↔ (連携)：連携事業、情報共有など  
 → ↔ (支援・連携)：今後の課題

👤 ボランティアが行われている  
 🗒️ ボランティアは今後の課題

子ども読書ネットワーク（人のつながりに関係するもの）

- ①町立図書館や関係機関では、読書支援ボランティアに関連した情報の提供や関連した研修会・講習会等を実施し、後継者やリーダーの育成に努めます。等

## ●子どもの読書環境の整備・充実●

### 1 学校図書館の整備・充実

**図書資料の整備・充実** 子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心にこたえる魅力的な資料や各教科において多様な教育活動を展開していくための資料などの整備・充実が必要です。

- ①各学校においては、学校図書館の図書資料の充実を図っていくよう努めます。等

**設備等の整備・充実** 校長のリーダーシップの下、図書主任（司書教諭）及び学校図書館司書を中心として学校図書館の環境整備に取り組むと共に、ボランティア等の協力を得て、学校図書館づくりを進めています。

- ①各学校では、学校図書館の設備等の整備・充実を図っていきます。また、研修会等を実施します。

- ②学校図書館と中央図書館のコンピュータ・システムを活用し、ネットワークの一層の強化を図ります。等

**学校図書館の活性化と人的配置の推進** 三芳町では、学校図書館司書を各校1名配置し、学校図書館の整備・充実に取り組んでいます。

- ①各学校では、学校図書館の利用を促進させ、より多くの子どもたちに学校図書館の本を読んでもらうよう、利用できる時間を増やす等の方策を検討し、その実現に努めます。等

### 2 町立図書館の整備・充実

町立図書館は、平成14年には、“文部科学省主催第1回“子ども読書の日”記念フォーラムで“子ども読書活動優秀実践図書館”として表彰されました。また、人口1人当たりの貸出冊数は全国でもトップクラスであり、町民、特に子どもたちに、よく利用されています。

**子どもの読書に関連した図書資料の整備・充実** 本は生きたものであり、日々、新たに刊行される本も多く、蔵書の充実は、図書館の基本的な業務です。

- ①町立図書館では、児童書の充実を図ります。特に、総合的な学習の時間や調べ学習、レファレンスに対応できる参考資料等の収集も積極的に行います。

- ②町立図書館では、中学生・高校生の興味に応え、この時期に読んでほしい資料の充実を努めます。

- ③町立図書館では、障がいのある子どものための資料を整備します。

- ④町立図書館では、団体貸出資料を拡充します。

- ⑤町立図書館では、日本語を母語としない子どものためのサービスを充実させます。等

**施設等の整備・充実** 図書館ネットワークが構築さ

れ、稼働しています。更に利用者の利便性が図れるように、その整備に努める必要があります。

- ①町立図書館では、誰もが、特に、ベビーカーや車椅子等でも利用しやすい設備に努めます。

- ②町立図書館では、中央図書館から遠い地域の利用者への配本所を整備します。

- ③町立図書館では、インターネット予約等利用者の利便性の向上に努めます。等

**児童担当司書の継続配置とその活動** 図書館は、情報に敏感に対応できる専門的職員が必要です。

- ①町立図書館では、子どもの読書体験を親や教師と共に喜び合える司書を継続配置できるよう努めます。職員研修を実施し、専門的職員を計画的に育成します。等

## ●子どもの読書活動に関係する情報提供●

### 1 ブックリストの作成・配布

**ブックリスト** 町立図書館や学校では、子どもの発達段階や目的に応じたブックリストを作成しています。

- ①町立図書館では、ブックリストの見直しを行いながら継続して発行します。司書連絡会は、“よもよも”を継続して刊行し、より内容の充実を努めます。等

### 2 町広報誌やホームページ等による情報提供

**広報誌等での情報提供** “広報みよし”やホームページで、おはなし会など開催事業の案内や子どもの読書活動推進事業の周知に努めています。

- ①“広報みよし”で図書館の本を紹介するコーナーで、児童図書を紹介する機会を増やします。

- ②ホームページで町立図書館などの主催事業案内を掲載します。町立図書館などの主催事業案内が町民にできるだけ親しみやすい内容になるよう努めます。等

**“三芳町子ども読書活動推進計画”の配布** 広く町民に配布し、理解を深めていくことが大切です。

- ①教育委員会では、“同推進計画”をホームページに掲載し、町内施設に常備し周知に努めます。

- ②教育委員会では、“同推進計画”の簡易版を子どものいる家庭に広く配布します。等

### 3 “子ども読書の日”への取り組み

“子ども読書の日”は、広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めると共に、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられています。

町立図書館では、“子ども読書の日”（4月23日）を記念する事業として、“子ども読書の日”に最も近い日曜日に“えほんワールド”を開催し、家族ぐるみでの参加を呼び掛けています。小中学校では“学校で‘よもよもday’”を実施しています。

- ①町立図書館では、引き続き、“えほんワールド”を4月23日に最も近い日曜日に開催します。等